

## 1. 外務省等への要請について

### 市長

昨日、在日米軍における新型コロナウイルス感染症の検疫・隔離処置等の徹底について、河野防衛大臣、鈴木外務副大臣、小島厚生労働大臣政務官に直接お会いし、要請を行ってまいりました。

今回の件で問題としているのは、市内の民間宿泊施設が日本政府の許容の下で、PCR検査結果判明前の待機場所として使用されていたことです。また、移動制限措置を実施する施設として米軍が使用することについて、国からは事案が発生するまでの間、何ら横須賀市に対して情報提供もなかったということです。対応が少しでも遅ければ、再度、同様のことが起こりかねないという強い危機感から、月曜日の事案認知以降、迅速に対応し、本日の記者会見に至りました。

私は、市民の安全・安心を守らなければなりません。今日にも、また明日にも、PCRの検査結果判明前の米軍関係者が待機し、そこで陽性が確認されることは否定できないと思っています。私は、米海軍横須賀基地が市民の理解を得ながら安定的に運用されていくことが、日本、そして、地域の安全保障のために大変重要であると常々考えています。今回のような事案で、それが覆されてしまうことを大変危惧しております。感染された米軍関係者の方には心よりお見舞いを申し上げますとともに、これまで同様に、米海軍には感染拡大防止に取り組んでいただきたいと思っております。

では、国への要請の結果を説明します。まず、小島厚生労働大臣政務官から、当該宿泊施設が検疫所の指定する施設に該当する旨のご説明がありました。そのため、私から、検疫所の指定する施設の定義と、現場確認を実施しているか否かを確認させていただきました。しかし、具体的な回答は得られませんでした。また、今回の事案は、防衛省には直接関係する内容ではありませんが、在日米軍全般にわたる内容かつ、今後、来日する米海軍関係者の増加が予想されるため、河野防衛大臣に対しても取り組みの強化を要請させていただきました。河野防衛大臣からは「全国的に見て、空港でのPCR検査の結果が判明する前の待機場所として、宿泊施設を利用している例はある。」とのご発言がありましたが、私からは「横須賀の実情を理解してほしい。」とお伝えしました。また、当該施設における感染防止対策を含めた、立ち入り調査を検討していく旨のご発言や、水際対策についても、実行的な対策を進めていく旨の前向きなご回答もいただきました。鈴木外務副大臣に対しても「空港でのPCR検査の結果判明前に、市内の宿泊施設を待機場所として利用しないでほしい。」ということと、適時適切な情報提供についても強く要請させていただきました。鈴木外務副大臣からは「今回の件については、米側と外務省、厚生労働省の間で協議を進めてきたが、その情報について、地元横須賀市と十分に共有できていなかった。今後はしっかりと情報共有を図っていきたい。」、また「今回の件で、このような問題が起きていることを、政府としても認識し、米側に問題提起をしていきたい。」というご発言がありました。さらに、「当該施設の運用について、現状の把握ができていなかったため、今後は状況を確認したい。」とのご説明もありました。

### ◎質疑応答

#### 記者

該当する市内のホテルは、以前から本案件のような用途で利用されていたのでしょうか。

**市長**

今回の国への要請時に確認はしていませんが、私は、利用されていないと思っています。

**記者**

当該ホテルにおける米軍の利用状況はどのような形なのでしょう。特定の部屋だけを米軍用に確保しているのか、あるいは、ホテル全体を借り上げているのでしょうか。

**市長**

詳細については、オーナーから確認していません。

**記者**

米側がホテル側に打診をしてきたということでしょうか。

**市長**

把握しておりません。

**記者**

米側が借り上げを希望している段階ということですね。ちなみに、本案件が判明した以降、当該ホテルの営業状況はどうなっているのでしょうか。

**市長**

それについても、把握しておりません。

私としては、「PCR検査の結果判明前に使用しないでほしい。」ということが第一です。陰性であるならば、ホテルと米軍間との調整になるため、自由に利用していただいて構いません。

**記者**

陰性であれば、米軍側も日本と同様、14日間の移動制限期間中にホテルを利用する可能性があるということでしょうか。

**市長**

おっしゃる通りです。その場合は利用していただいて構いません。「検査結果判明前には使用しないでほしい」というお願いをしてきました。

**記者**

今後、来日する米海軍関係者の増加が予想されるということでしたが、レーガンの帰港後の定期点検などで技術者の方がいらっしゃることが理由でしょうか。

**市長**

おっしゃる通りです。水際対策を含め、感染防止の徹底をお願いしました。

**記者**

昨日（7月21日）の横須賀基地からの発表では、現在、7人いる陽性者のうち、6人は、アメリカから入国した際に陽性が判明したと伺っています。これについては、適切な処置が取られ、本案件には該当しない（市内のホテルを利用していない）ということでしょうか。

**市長**

はい。そのように思っています。

**記者**

本案件に該当しないと考えられるのは、これまで外務省を通じて入ってきた情報から判断しているのでしょうか。そうではなく、推測なののでしょうか。

**市長**

外務省や厚労省から、事前の連絡はありませんでした。しかし、市保健所と在日米軍間で共有される情報を基に、そのように判断いたしました。

**記者**

他自治体においても、本案件と同様に、検査結果の判明前に当該地域のホテルに滞在するとうような事例はあるのでしょうか。国への要請の中で、そのような話題はありましたか。

**市長**

全国的に、検疫所長の権限により、検査結果が判明する前に一時的にホテルに滞在させるという話があると伺いました。しかし、横須賀は環境が異なるにも関わらず、その延長として考えられているようだったため、結果判明前には使用しないでいただきたいとお伝えしました。

**記者**

検疫所の判断により、一時的にホテルに滞在させる対象者は、空港に到着した際に陰性と判明した方ということでしょうか。

**市長室特命参与**

そうではないようです。厚労省、防衛省の理解の上で、借り上げたホテルに結果判明前の方を滞在させることがあると伺いました。

**記者**

では、結果前の待機所として、ホテルを使用しているということでしょうか。

**市長**

おっしゃる通りです。

**記者**

待機所のホテルに滞在するのは、基本的には日本人の方でしょうか。

**市長室特命参与**

把握しておりません。

**市長**

アメリカ人の方が滞在している可能性もあります。一般論として、そのように運用されているということです。

**記者**

では、国籍に関わらず、日本に入国した方はPCR検査結果判明前にホテルに滞在することがあるということですね。

**市長**

はい。

**記者**

今回のように、厚労省が当該地域に対し、検疫所指定の宿泊施設が存在することを通知していなかった事例は、全国にどの程度あるのでしょうか。また、横須賀は本当に1件なのでしょうか。

**市長**

全国の事例については、把握しておりません。横須賀については、今回の1件だけだと思います。

**記者**

これまでは、外国から日本に来た際には、検査結果に関わらず、空港で2週間、待機してから入国というルールだったと思いますが、変更したということでしょうか。

**市長**

米軍に限らず、ルールが変わったようです。しかし、いつ変わったのかは定かではありません。国籍を問わず、来日した方々については、PCR検査結果判明前に一括してホテルに滞在することに変更したようです。ルールが変更になり、当該ホテルが横須賀にあるならば、連絡があつて然るべきと私は理解していました。

**記者**

確認ですが、横須賀市内の当該ホテルは、厚労省によって、PCR検査の結果判明前に一括して待機させる場所として既に指定されていたということでしょうか。

**市長**

はい。おっしゃる通りです。

**記者**

指定された理由や指定された時期については、説明があつたのでしょうか。

**市長**

聞いておりません。

**記者**

滞在しているホテルでPCR検査の結果を待ち、陰性の場合、そこで14日間待機するのでしょうか。

**市長**

おっしゃる通りです。陽性の場合、当然、隔離することになると思います。しかし、待機場所から市内ホテルまでの移動などを考えると、感染リスクがゼロとは言い切れませんので、検査結果判明後の移動をお願いしたいです。

**記者**

都内などのホテルにおいても、検査結果判明前から滞在し、判明後もそのまま滞在するような

使われ方をされているのでしょうか。

**市長**

詳細は把握しておりません。それぞれの自治体の問題だと思っています。

**記者**

今回の国への要請では、日本側の検疫ルールを遵守する必要性を訴えられたと思いますが、政府の対応はルールを逸脱していないのでしょうか。

**市長室特命参与**

確かに、検疫所の指定施設を待機場所として使用することは、政府のルールを逸脱しているとは言えないと思います。しかし、そのような対応は、市として看過できないと考えていますので、今回の要請に至りました。

**記者**

今後、同様のことが起きた際、適切に横須賀市に情報提供されるのでしょうか。

**市長**

はい。それを行っていただくために、各所にお伺いしました。

**記者**

当該ホテルについて、場所などの詳細を教えていただけないでしょうか。

**市長**

さまざまな風評被害が予想されるため、オーナーのお立場などを考慮して、公表は控えさせていただきます。

**記者**

市としては、把握しているのでしょうか。

**市長**

はい。

**記者**

それは、厚生労働省から情報提供があったということでしょうか。

**市長**

はい。ある程度の情報提供がありました。また、この地域に住んでいれば、推察可能な場所であると思います。

**記者**

厚労省が、PCR検査結果判明前に滞在先としてホテルを利用するという新しい運用は、いつから開始したのでしょうか。

**市長**

把握しておりません。

**記者**

昨日の国への要請の際にも説明がなかったということでしょうか。

**市長**

はい。聞いておりません。

**記者**

それに伴い、米軍が、横須賀市内のホテルの借用を開始した時期も把握されていないということでしょうか。

**市長**

はい。明確な時期は把握しておりません。

**市長室特命参与**

厚労省に確認しましたが、回答を得ることはできませんでした。

**市長**

厚労省は、借り上げているホテルの名称や地域が公になることを恐れているのではないかと思います。そのため、自治体への連絡を行っていないのではないかと推察しています。しかし、横須賀を守る責任がある私としては、市内のホテルが使用されている以上、連絡をいただくよう要請することは当然の行動であると思っています。

**記者**

今後、しっかりと情報が提供されるならば、検査結果判明前の米軍の方々の待機場所として、市内のホテル利用は問題ないとお考えでしょうか。

**市長**

米軍の問題ではありますが、市内ではなく、米軍の施設内や近隣に借り上げていただくことなども想定できるかと思えます。また、今後は、国同様、水際対策を横須賀の中で実施し、危険を回避したいという思いがあります。

**記者**

改めて、強く訴えたいことはどのようなことでしょうか。

**市長**

「PCR検査結果判明前には、横須賀に連れて来てくれるな」と。これが1番大きなテーマです。

**記者**

米側の新年度である9月は、米軍の方々の移動が増える時期と思われます。それについては、どのように危機感を抱かれていらっしゃいますか。

**市長**

危機感が募ります。アメリカにおいては、現在も感染者が増え続けていますので、大変不安を感じています。河野防衛大臣には「水際対策をしっかりと講じていただきたい。」と強く要請したと

ころ、「その要請を米軍側に伝え、しっかりとした検査体制を構築していく。」とご回答をいただきました。

私は、横須賀の地形上、多数のクラスターが発生した場合を恐れています。半島の持つ宿命のように感じています。徹底したPCR検査体制と水際対策を構築しなければ、横須賀での感染拡大は免れないのではないかと危惧しています。また、それは、米軍にとっても同様だと思います。

## 2. 新型コロナウイルス抗体検査の実施結果について

### 市長

抗体検査の実施結果について説明させていただきます。7月3日から15日まで検査を実施し、964名の市民の皆さん、40の医療機関にご協力いただきました。まずは、この場をお借りし、感謝申し上げます。

結果は、受検者964名のうち、抗体保有者は10名で、抗体保有率は1.04パーセントでした。統計上の話ではありますが、この結果は、横須賀市民、約40万人に対して4,000人が抗体を保有していることとなります。ある程度の予想をしていたとはいえ、市内の感染率である0.018パーセントと比較しても、非常に高い数値だと思います。なお、抗体保有者10名については、性別、年代、職業など属性には偏りがない結果となりました。この結果を踏まえ、今後、検査体制の充実を図ることが不可欠であると考えます。症状がない方であっても、PCR検査、抗原検査などを受検できる体制の構築に向け、現在、市内医療機関と調整を行っています。

### ◎質疑応答

#### 記者

今回の結果について、高い数値に驚きましたが、市長もそのようにお感じでしょうか。

#### 市長

はい。(数値の)高さに驚きました。

#### 記者

今後、抗体検査の継続予定はございますか。

#### 市長

今回、7月に実施しましたので、12月ごろに再度、実施を検討しております。5カ月間でどのような変化があるのかを調査したいと思っています。

#### 記者

各自治体で実施された抗体検査における平均値などは公表されているのでしょうか。

#### 市長

把握しておりません。

### 新型コロナウイルス感染症対策実施本部長

平均値ではございませんが、参考値として、東京都が0.1パーセントです。また、検査方法が自治体ごとに異なるため、比較することはできませんが、大阪が0.17パーセント、宮城が0.03パーセントです。

**記者**

無作為抽出した 2,000 人に郵送で案内を送り、検査を受けた方は半数以下です。その点については、いかがでしょうか。

**市長**

半数の方にしかご協力いただけなかったことは、仕方がないことだと思っています。受検者が 2,000 人に達することが望ましいとは思いますが、それは難しいと判断しました。

**記者**

今回の抗体検査の目的の一つに、属性から感染者の傾向を明らかにすることが挙げられると思います。結果から、どのようなことが予想されるのでしょうか。

**市長**

属性には、ばらつきや隔たりがないことがわかりましたので、関連性は低いと考えています。

**記者**

結果から、横須賀市内において、どのような生活スタイルの方が感染しやすいかなども予想できないということでしょうか。

**市長**

はい。明らかではありません。本来、そのような徹底した調査が必要であると思いますが、現時点では、そのすべがございません。しかし、1パーセントの市民の方々が抗体を保持しているという事実は、非常に重大なことであると受け止めています。今後、PCR検査を拡充しながら、対策を講じていきたいと思っています。

4,000 人という結果に対する市民の皆さんの受け止め方には不安を感じていますが、数値の高さから「自分も感染していたかもしれない」という意識が生まれ、感染者に対する誹謗中傷を避けることにつながるのではないかと考えています。また、その上で、感染症対策の実施、3密の回避の啓発にもなると考えています。

**記者**

今後の検査体制の拡充については、どのようなことを検討されているのでしょうか。

**市長**

PCRセンターに限らず、病院で検査が実施できるよう、すでに調整中です。

**記者**

3病院（市民病院、共済病院、うわまち病院）での実施ということでしょうか。

**市長**

3病院のみならず、町のクリニックにも広げていく予定です。行政として、それぞれに何ができるのかを考慮し、拡充を前提に依頼しています。

**記者**

関係各所に打診しているということでしょうか。

**市長**

はい。共済病院からは、実施していただけるというお返事をいただいています。

**記者**

結果を受け、市民に対しては、どのような啓発を検討していますか。

**市長**

今後、考えていく予定です。まず初めに、市民向けのメッセージを発信いたします。結果を踏まえ、徹底した3密対策や、ご自身も感染者かもしれないという理解の上で、感染者への誹謗中傷を避けていただきたいというお願いをしたいと思います

**記者**

差別に関する対策を徹底したいということでしょうか。

**市長**

おっしゃる通りです。

**記者**

PCR検査の拡充をご検討されているとのことですが、帰国者・接触者相談センターを介さず、直接、市民が病院とつながるということでしょうか。

**市長**

はい。抗原検査かPCR検査かは決定していませんが、各病院で積極的に行ってもらうように要請しています。

**記者**

開始時期など詳細は決まっているのでしょうか。

**市長**

まだ決まっておりません。早急に取り組む必要がありますので、現在、クリニックと調整中です。

**記者**

クリニックにおいては、通常の診療と同じような流れで、検査を受けられるということでしょうか。

**新型コロナウイルス感染症対策実施本部長**

ご自身で希望し、検査を受けられた場合には、自由診療となります。可能な限り、多くのクリニックで実施できるよう調整しています。

**市長**

クリニックで検査を受ける際には、予約が必要になると思います。また、周知については、検査を実施しているクリニックから、公表の承諾が得られた場合は、市から皆さんへ案内したいと思っています。

**記者**

検査数の目標値はありますか。

**市長**

ございません。しかし、社員全員に検査を受けさせたいと希望している大手企業がいらっしゃいますので、行政が調整を図るべきと考えています。

**記者**

今回の横須賀市の抗体検査の結果、1.04 パーセントという数字は、他都市の結果とは単純比較できないと考えてよろしいでしょうか。

**市長**

はい。

**記者**

東京や大阪、宮城では、2つの方法で検査を実施し、いずれにおいても陽性が確認された場合を結果として発表していますが、横須賀では、1つの方法でしか結果を得ていないということでしょうか。

**市長**

おっしゃる通りです。

**記者**

新型コロナウイルスに関して、3種類の検査（PCR検査、抗体検査、抗原検査）があり、混乱されている方が多いのではないかと思います。また「抗体検査で陽性だったから自分は感染しない」と捉えている方も多いようです。それらを踏まえ、今後、市民に対してはどのような啓発を考えているのでしょうか。

**市長**

おっしゃる通りです。検査の違いや、抗体を持っていても、感染する可能性があるということをご丁寧に伝えていくべきと考えています。しかし、今回の検査結果を踏まえ、市民の皆さんへ最も伝えたいことは、市内におけるまん延状況、市内で何人が罹患したのかということです。そして、次回の検査時には、今回と比べた状況の変化、その理由を調査する必要があると思っています。

**記者**

先日、実際に抗体検査を受けられた方への取材の機会がありました。その方は「陰性だったから良かった。」とおっしゃっていましたが、今後、罹患する可能性が高いと言えるということでしょうか。

**市長**

はい。また、陽性、抗体を持っていた方であっても罹患するため、抗体検査の結果によって「自分は感染しない。」とは言えません。

**記者**

今回の抗体検査の実施に当たり、事業費はどの程度かかったのでしょうか。

**秘書課長**

現時点で、約 440 万円です。1 人当たりでは、検査費の 4,120 円に事務費が加わります。

**記者**

検査結果において、一定の地域で陽性者の割合が多いなど、特性を把握することはできなかったのでしょうか。

**市長**

特定の地域を限定することはできませんでした。広範囲にまん延しているのではないかと考えています。

**記者**

昨日（7月 21 日）、米軍が各基地内における感染者数を発表しました。横須賀は 16 日以前で 8 人、22 日時点で 7 人でしたが、米軍が公表したことと、この数字に対するご所見をお聞かせください。

**市長**

これまで、安全保障上の問題により、感染者数を公表しないという米軍の方針に理解を示していました。今回の発表で透明性が増したことについては、一定の評価をする必要があると思います。しかし、われわれと連携しながら、的確な感染症対策、検査体制を確立していただくことが、感染者数の公表よりも重要であると考えています。